

2 研究の実際

(1) 特別支援学級の自立活動の指導の現状と課題

ア 自立活動の指導に関するアンケートについて

本県の特別支援学級における自立活動の指導の現状を探るために、抽出した小・中学校及び義務教育学校で自閉症・情緒障害特別支援学級を担当する教師を対象に、自立活動の指導に関するアンケートを実施しました。アンケートは、6～8月に実施し、小学校及び義務教育学校前期課程58人、中学校及び義務教育学校後期課程13人、合計71人の回答を得ました。この71人は、今年度、本県において、特別支援学級を担当する全教師788人の約9％に該当します。アンケート内容は**自立活動の指導の現状と課題-4**に示す「小・中学校及び義務教育学校の自閉症・情緒障害特別支援における自立活動の指導に関するアンケート」の通りです。

イ 質問項目別集計

質問項目別の集計は以下の通りです。

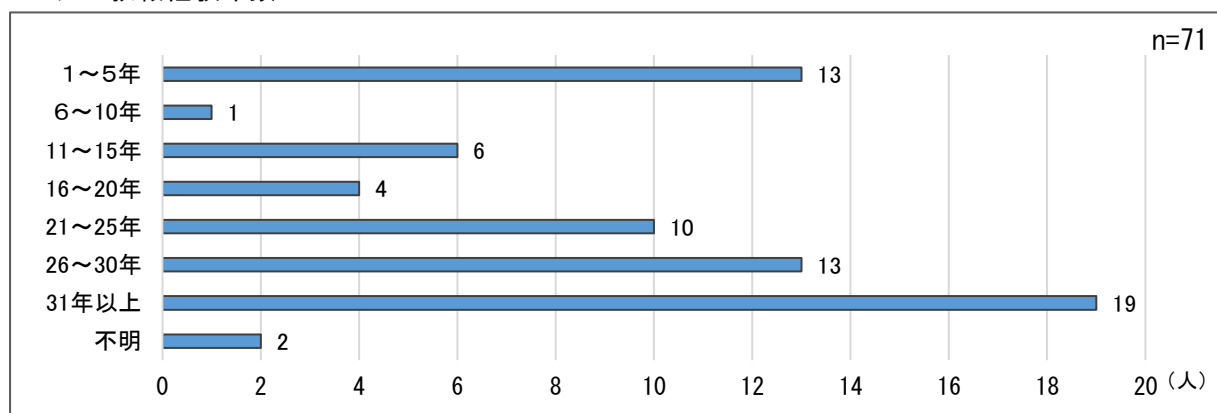
Q1 先生自身について

(1) 学校種

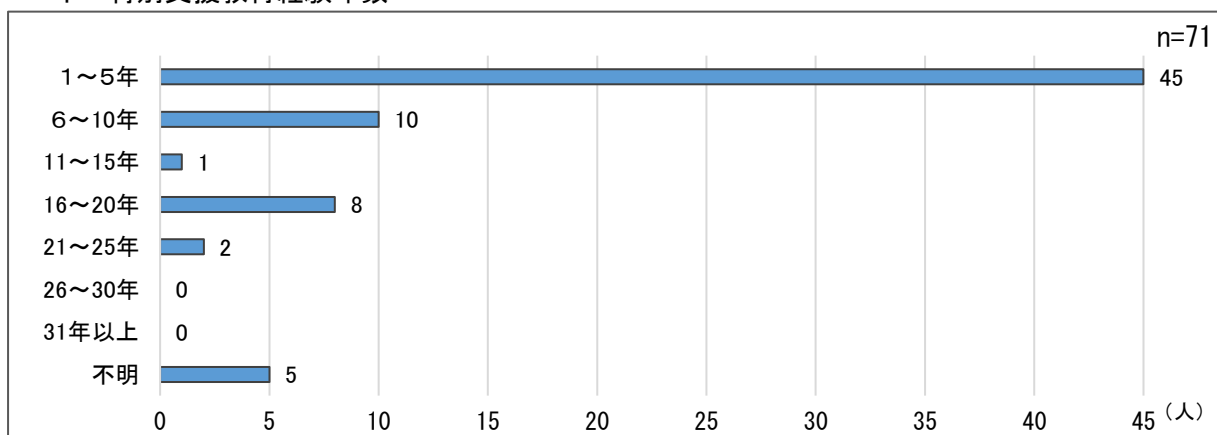
小学校及び 義務教育学校前期課程	中学校及び 義務教育学校後期課程	合計
58人	13人	71人

(2) 教職経験及び特別支援教育経験年数

ア 教職経験年数



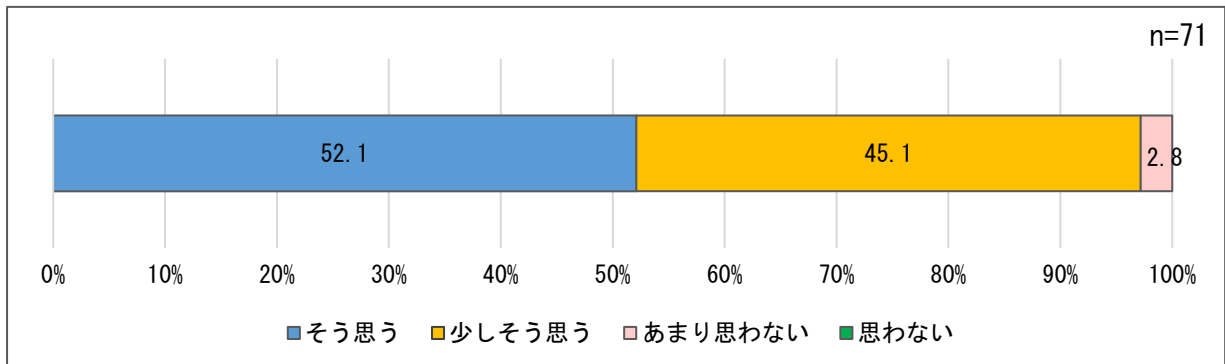
イ 特別支援教育経験年数



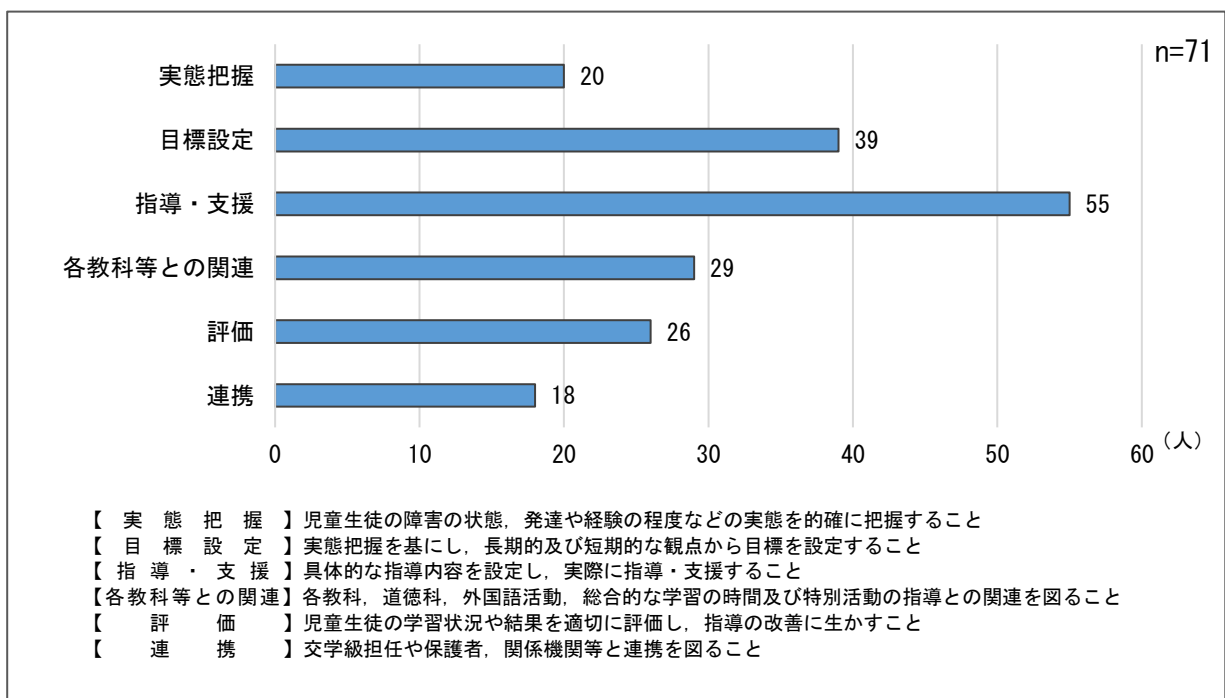
- ・「小学校及び義務教育学校前期課程」58人、「中学校及び義務教育学校後期課程」13人、合計71人の回答を得た。
- ・教職経験年数は、回答の多い順に、19人が「31年以上」、13人が「1～5年」「26～30年」、10人が「21～25年」と回答した。
- ・特別支援教育経験年数は、回答の多い順に、45人が「1～5年」、10人が「6～10年」、8人が「16～20年」と回答した。

Q2 自立活動の指導について

(1) 自立活動の指導は難しいと思いますか



(2) 自立活動の指導をする上で難しいと思うのはどのようなことですか（3つまで回答可）



- ・自立活動の指導の難しさについて、52.1%が「そう思う」、45.1%が「少しそう思う」、2.8%が「あまり思わない」と回答した。
- ・自立活動の指導をする上で難しいと思うことは、回答の多い順に、「指導・支援」「目標設定」「各教科等との関連」「評価」「実態把握」「連携」であった。

(3) 自立活動の指導をする上で、知りたいことや気になることについて（自由記述）

- ・自立活動の指導の具体例、実践例について知りたい。

- ・個別で指導する際と、少人数グループで指導する際のポイントを知りたい。
- ・国語科や算数科等の各教科の一部を、自立活動の時間とすることができるか。
- ・こだわりが強い児童生徒の社会性やコミュニケーション能力を育てる手立てを知りたい。
- ・複数の項目に課題がある児童生徒に対して、どのように自立活動を計画していけばよいのか。
- ・一人一人の児童生徒の実態に応じた目標設定や評価の仕方について詳しく知りたい。
- ・国語科や算数科等の各教科と、自立活動をどのように関連させていくのかがよく分からない。
- ・担任が替わるごとに児童生徒の実態把握が異なり、指導目標も変わってしまい、系統的な指導が難しい。

ウ アンケートの結果から

今回行ったアンケートの結果から、現状と課題を以下のように捉えました。

(7) 特別支援教育経験年数の浅い教師の割合が高い

特別支援学級を担当する教師の特別支援教育経験年数については、71人のうち45人が、「1～5年」と回答しました。アンケートに回答した教師の63.4%が、特別支援教育経験は5年以下と答えていることになります。このことから、専門的知識や実践を求められる特別支援学級において、特別支援教育経験年数の浅い教師が担当している割合が高いことが分かりました。また、自立活動の指導の難しさについて、52.1%が「そう思う」と回答し、自由記述欄にも「自立活動の具体例、実践例について知りたい」「個別で指導する際と、少人数グループで指導する際のポイントを知りたい」「複数の項目に課題がある児童生徒に対して、どのように自立活動を計画していけばよいのか」などと記述していることから、実際の指導・支援の場面で苦慮している様子がうかがえました。

特別支援教育については、専門的な知識の習得や指導内容、実践の定着に時間や経験を要することが考えられます。また、特別支援学級担任は、担当の障害種に関する教育について、最も知識のある専門家として、校内の教師等から助言を求められることもあります。そのため、特別支援学級担任が、継続的に自己の専門性の向上に努めることや、特別支援教育に関する校内支援体制づくりの充実を図ることが必要です。

(4) 自立活動の指導に難しさを感じている教師が多い

自立活動の指導の難しさについて、52.1%が「そう思う」、45.1%が「少しそう思う」、2.8%が「あまり思わない」と回答しました。また、自立活動の指導をする上で難しいと思うことは、回答の多い順に、「指導・支援」「目標設定」「各教科等との関連」「評価」「実態把握」「連携」でした。自由記述欄においても、特別支援教育に関する専門的な知識の習得に関することや具体的な指導内容、実践、評価の方法等に関する記述が見られました。

自立活動は、個々の児童生徒の障害の状態や発達の段階等に即して指導を行うことが必要です。児童生徒一人一人の実態を的確に把握して個別の指導計画を作成し、それに基づいた指導を展開しなければならず、そのためには、一定の専門的な知識や技能が必要です。また、自立活動を指導する教師だけでなく、全ての教師の理解や教師間の連携が大切です。

小・中学校及び義務教育学校の自閉症・情緒障害特別支援学級における自立活動の指導に関するアンケート

当センターでは、小・中学校及び義務教育学校の自閉症・情緒障害特別支援学級における一人一人のニーズに応じた自立活動の指導の充実を図るための研究に取り組んでいます。

そこで、自立活動の指導に関する現状と課題を探るために、実態調査アンケートを作成しました。以下の項目についてご回答をお願いいたします。

Q 1 先生自身についてお答えください。

(1) 現在、勤務されている学校種は何ですか。当てはまる番号に○を付けてください。

- ① 小学校または義務教育学校前期課程 ② 中学校または義務教育学校後期課程

(2) 教職経験及び特別支援教育経験年数を教えてください。(講師の年数を含む)

教職経験 () 年目 うち特別支援教育経験年数 () 年目

Q 2 自立活動の指導についてお答えください。

(1) 自立活動の指導は難しいと思われますか。当てはまる番号に○を付けてください。

- ① そう思う ② 少しそう思う ③ あまり思わない ④ 思わない

↳ Q 2 (2), Q 3 の問いにお答えください ↳ Q 3 の問いにお答えください

(2) 自立活動の指導をする上で、難しいと思われるのはどのようなことですか。次の中から 3 つ 選択し、当てはまる番号に○を付けてください。

① 【実態把握】

児童生徒の障害の状態、発達や経験の程度などの実態を的確に把握すること

② 【目標設定】

実態把握を基にし、長期的及び短期的な観点から目標を設定すること

③ 【指導・支援】

具体的な指導内容を設定し、実際に指導・支援すること

④ 【各教科等との関連】

各教科、道德科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動の指導との関連を図ること

⑤ 【評価】

児童生徒の学習状況や結果を適切に評価し、指導の改善に生かすこと

⑥ 【連携】

交流学級担任や保護者、関係機関等と連携を図ること

Q 3 自立活動の指導をする上で、知りたいことや気になることなど、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。